

# 歴史姉妹都市の仙台市から訪問団来町 友好関係の絆を深める

\* 郡仙台市長ら 仙台藩士の墓地を訪れ手を合わせる

情報ノート



郡和子市長をはじめ、赤間次彦市議会議長ら市議3人と市職員が8月20、21日、本町を訪れました。昨年は歴史姉妹都市提携40周年に合わせ、記念行事の開催や相互交流を図る予定でしたが、コロナ禍で断念。それでも今年1月には戸田安彦町長、松田謙吾町議会議長らが仙台市を訪れ、郡市長らと懇談しました。

戸田町長ら4役、氏家裕治副議長らが迎え、和やかに歓談。戸田町長、郡市長は、子どもたち、文化・スポーツ、震災復興支



援、アイヌ文化の理解など、これまでの相互の交流を振り返り、さらなるつながりを深めることを確認しました。

訪問団は21日、仙台藩が築いた元陣屋跡や現在の資料館を訪れ、藩士の墓地に手を合わせ先人をしのびました。ウポポイも視察して拠点造営、運営に大きく影響を与えたアイヌ民族への理解を深めていました。

## 仙台藩白老元陣屋資料館企画展 「郷土の歌人 満岡照子」

明治25(1892)年、白老村に誕生した照子(旧姓井深)は、17歳の頃から独習で作歌活動を開始。41(1908)年、後に白老村郵便局長となる満岡伸一と結婚しました。昭和2(1927)年に第1歌集『満岡照子短歌選集』を発刊。13(1938)年、著名人を招いた短歌大会を自宅で開催。16(1941)年には第2歌集『火の山』を刊行するなど、女流歌人として文壇に名をはせました。死後の昭和42(1967)年、第3歌集『火山灰』が発行されました。一方、伸一は郵便局長業務の傍ら、アイヌ民族の風習・伝承の記録化に取り組み、大正13(1924)年白老アイヌの風習などを独自に記録した『アイヌの足跡』を発刊しました。2人の文化的活動は広く知られ、夫婦の案内を頼りに白老を訪れた文人や研究者も少なくありません。

本展示会では照子の歌人としての生涯(～昭和41(1966)年、享年75歳)と作品に目を向けます。

会期 10月15日(土)～11月6日(日)  
9時30分～16時30分 \*月曜休館

会場 同資料館会議室

主な展示資料 歌集、色紙、短冊など30点

入館料 一般300円・小中学生150円 町民無料

講演会 10月22日(土) 13時30分～15時  
照子のひ孫で詩人・エッセイストとして活躍中の文月悠光さんが「私の曾祖母照子の生涯と歌」と題して講演する。

詳細 元陣屋資料館 ☎85-2666

## 史跡白老仙台藩陣屋跡第2次環境整備事業 シンポジウム 「陣屋跡のこれまでとこれから(仮)」

昭和41(1966)年に史跡指定を受けた白老仙台藩陣屋跡は、幕末蝦夷地に造られた貴重な遺跡であり、白老の過去と未来をつなぐ大切なまちの財産です。

教育委員会では史跡を確実に未来へ継承することを目的に、令和3(2021)年3月、『史跡白老仙台藩陣屋跡保存活用計画』を定め、史跡として最も重要な要素である土塁や堀割などの本質的価値や、保存と活用のための基本的なルールを整理しました。同4年度からは、具体的な整備に向け、発掘調査や植生調査を行いつつ、『史跡白老仙台藩陣屋跡整備基本計画(仮)』の策定に取り組んでいます。

シンポジウムは、白老元陣屋の歩みを振り返ることでその重要性を共有し、皆さんと一緒に白老元陣屋の未来を考えていくきっかけにしたいと考えています。計画策定に携わる委員も登壇し、史跡整備による地域振興の可能性や、官民一体となった取り組みの事例などを紹介します。日時は11月号でお知らせします。

会場 いきいき4・6 研修室2

講師 田才雅彦さん(文化財サポート代表)  
井上宗則さん(秋田公立美術大学准教授)

参加料 無料

定員 60人

詳細 元陣屋資料館 ☎85-2666